

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム金木屋 1		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、プランターで野菜を育てたり、制作活動などで季節を感じていただいています。入居者様の誕生会では、リクエストいただいた物や好物などを可能な限り用意し、楽しんでいただけるようにしています。職員同士の関係も良く、相談やアドバイスなどもし合い、ケアに活かしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一関市山目の住宅地の一角にあって1階と2階の二つのユニットで運営されている。宮城県栗原市に本部を置く運営法人の市内二つ目のグループホームである。開設3年目を迎え、手探りながらも進めてきた地域との交流は、コロナ禍により止むを得ず中断せざるを得ない状況にある。何でも話し合える職場風土を作り上げ、開設時に職員で決めた理念に沿って、日々安心して生活出来る介護を実践しながら、地域とともに歩んでいこうとしている。食事の副食は法人から搬送され、手が空いた時間を有効に活用して利用者の支援に厚みを持たせ、シフトを調整した居室担当職員の通院同行はもとより、午前10時、午後2時をお茶の時間として何気ない会話を交わすことにより、利用者のその時々的心情に配慮した介護の実践に繋げている。更に、全ての利用者について、数行ずつであっても30日分を「毎日の暮らしぶり」として作成・お届けし、コロナ禍で面会が思うに任せない家族の心情に応えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示し、意識しながら、支援を行なうようにしている。	開設時に職員で相談して決めた理念は、利用者に寄り添い日々安心して生活出来る介護の実践を宣誓するものとして位置付けられ、同時に地域と仲良くしていこうとする姿勢を宣言している。事務所に掲示し職員間の共有に努めている。	理念は介護に従事する職員のみならず、利用者にとっても事業所での生活の基本となるものです。利用者全員の目に触れるようホールに掲示することについて、意義、功罪等を含め、それぞれのユニットで協議されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けていただいている。コロナウイルスの影響の為、今年度は交流等はないものの、ご近所の方とお会いした際には挨拶を交わしている。	開設間もないこともあり、町内会(山目宮前民区)に加入しながら地域との交流を進めようとしていた矢先、コロナ禍のため例年の夏祭りの交流もなく、広報紙を届けて下さる区長を通じて地域の情報を得ている状況にある。コロナ禍の自粛が解除されたら、まずは事業所周辺の散歩から再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域の方に向けて特に何も出来ていない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度会議を開催し、ホーム内の状況や行事、事故報告などを伝えていたが、今年度は開催はせず、事業所からの報告を書面にて通知及び公表している。	委員は、民生委員を兼ねる区長と利用者・家族、行政関係者で構成されている。これまで運営状況等を報告し、夏祭りを通じた地域との交流等の提言、助力を得てきた。コロナ禍のため、2カ月毎に運営状況等の資料を郵送することで会議に代えている。	運営推進会議の役割に照らし、地域の社会資源の関係者、消防職員や警察職員のOB、隣近所の方々などを委員として委嘱し、多方面からの意見を頂ける体制にすることが期待されます。またコロナ禍のため通常の開催形態が困難であっても、資料の郵送に併せ、委員から意見等を頂けるよう改めることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、電話にて問合せや相談をさせていただいている。直接伺う事もある。	広域行政事務組合には制度の運用を照会し、市の長寿社会課からは各種行政情報を得ている。また生活保護受給者の入居も可能であることなどから、地域包括支援センターからは、緊急の入居受入れの照会も寄せられ、出来る限り対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナウイルスの感染拡大防止の為、現在は研修会を行っておらず、事業所にて、関連資料を皆で閲覧し、身体拘束について理解を深めている。また、定期的な職員への個別聞き取りなどを行い、現状把握を行っている。	事業所としての指針を作成し、両ユニット持ち回りで、全職員が出席する定例の職員会議に引き続き、身体拘束廃止委員会を開催してきた。法人の方針により、現在は職員の集合を控え、資料の回覧周知に代えている。起床センサーの使用はない。管理者は気になる言葉遣いがあった際には、その場で職員に注意を促すことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	例年であれば、法人全体研修並びに事業所での内部研修にて、虐待について理解を深めていたが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為、研修は実施せず、資料を回覧する事により、職員個々でそれぞれ学ぶようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年であれば、内部研修にて理解を深めていたが、今年度は会議は開催せず、資料回覧にて、職員個々で学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容について十分に理解していただけるように、家族へ時間をかけて説明しており、そのうえで契約手続きを行なう様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望がある時は、担当職員と相談している。なかなか意見等を言い出しにくい場合も考えられる為、玄関にご意見箱を設置している。	2階の数人を除き、利用者は、何をしたいかを言葉で伝えており、それが室内での作業に繋がっている。家族には、日々の介護記録から抽出した「毎日の暮らしぶり」を時系列に整理したものを郵送することで、要望などを話しやすい環境づくりに寄与している。	家族に提供している「毎日の暮らしぶり」は、介護の振返りの貴重な資料としてはもとより、家族の評価も高く、事業所と家族の会話の糸口以上に、相互の信頼の基礎になっていると思われます。今後とも職員が心を一つにして、地道な努力を続けられることを期待します。

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	例年であれば、毎月の会議にて、意見や提案を聴く機会を設けているも、今年度は職員が集まったの会議を控えている為、必要に応じて個別にて話を伺う機会を持つようにしている。	二人の管理者はともに、事業所の強みを「職員の仲がよいこと」とする通り、何時でも何でも話し合える職場環境にある。会議を開くまでもなく、職員から様々な気付きが寄せられ、スープの量をカップを持ちやすい程度にすることや日めくりカレンダーの製作・活用など、利用者を笑顔にするちょっとした工夫が職員の発意により積み重ねられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や、自信ややりがいを持てるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な資格取得を促すとともに、研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上の為、外部研修等への参加を促している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査後、アセスメントを行い、希望を取り入れ、入居者様が安心して生活できるように同じ目線に立ち、寄り添う介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や要望を傾聴しながら、利用者とその人らしく生活出来る様、ケアサービスに出来るだけ反映させている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査・ケアプラン立案では、入居者様がもっとも支援してほしい事をサービスとして導入している。支援方法については、生活過程の中で、その方の変化や状況に合わせて対応方法を変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや掃除、広告チラシを使用した箱作りなど、その方が出来る事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月分のホームでの様子を記録したものを毎月御家族様に送付している。また、必要に応じて、面会時や電話連絡にて状態報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの感染拡大防止の為、現在は直接会っての面会は、基本的には禁止としているが、電話などで話をさせていただく事がある。	他県の高齢者施設で新型コロナウイルスの感染が発生したことを契機に、法人として直接会っての面会を禁止している。そのため、感染防止対策は完璧に行なわれている反面、止むを得ないとは言え、馴染みの友人・知人はもとより、家族と直接面談しての関りも絶えている状況にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルでは、気の合う人を隣にしたり、必要に応じて職員が間に入り、交流が深まるように努めている。集団での関りが難しい方は、職員が個別に関わりを多く持ち、状況に応じて孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも、御家族様にお会いした際には、近況や状態を伺う等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話をしながら、希望等を確認している。困難な場合には、日々の様子や言動などから、本人の思いを読み取るように努めている。	安心した生活を提供できる基本は、理念に沿って利用者の思いや願いを知り理解することと捉えている。毎日午前10時と午後2時のお茶の時間を中心に、利用者との何気ない会話を積み重ね、その中から、利用者の心情やこれまでの変転極まりない人生の理解に努め、時には家族の情報も交えながら、職員間で共有し「安心」した生活の提供に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査の際に、ご本人や御家族様から、生活歴や暮らし方、趣味などを伺い、把握に努めケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表や記録を活用し、把握に努めている。また、毎月のカンファレンスにて、さらに現状の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族さまの希望等を取り入れ、介護計画を作成している。また、日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画に反映させている。	長期目標1年、短期目標6ヵ月とし、職員全員による毎月のモニタリングを経て、居室担当者作成の介護記録を基に管理者とケアマネが6ヵ月を周期とする原案を作成し、カンファレンスを経て成案としている。計画には、日常生活での取り組みを期待する事項を盛り込んでいるが、一定の目的を達成し日常生活に溶け込んだ場合には、次の目標に置き換えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録等に毎日記録しており、介護計画の見直しに活かしている。また、職員への聞き取りなどにて、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族さまの希望にて、訪問美容室や訪問診療を利用する方もいる。また、かかりつけ医への通院の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の訪問美容室に来ていただき、希望者が利用している。また、かかりつけ医への受診や、調剤薬局を利用・相談する事により、不安なく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は基本的に職員が同行しており、受診結果に変わりがある際は、御家族にも報告している。訪問診療を利用している方もいる。	1階は7人中6人、2回は9人中5人の11人の利用者が入居前のかかりつけ医を受診し、他は近くの協力医に変更している。家族が受診に同行している眼科等の特別科を除き、受診日を念頭に職員のシフトを調整しながら居室担当が通院に同行している。普段の健康管理は毎週栗原市から来訪する法人の看護師を中心に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に同法人内の看護師が来所しており、健康管理を行っている。状態について相談し、必要に応じてアドバイスをいただく事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には、病室への訪問にて状態確認していたが、現状では難しい為、御家族や医療機関との情報交換や、協力を得ながら、速やかな入他院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や看取りについて、指針に沿って御家族に説明している。看取りについては、現在希望している方はいないものの、希望者がいる場合は、医師や看護師の助言を得ながら、支援していきたいと考えている。	指針を策定し、入居時に本人・家族に説明し了解を得ている。現段階で1人が看取りを希望している。医療行為が必要とされない限り、事業所で介護することを基本としている。事業所としての看取りの実績はないが、2人の職員(うち1人は管理者)が系列のグループホームで経験している。看取りが必要になった場合には、家族と医師の協議の下、居室担当、管理者、看護師を中心に他の職員のサポートを得て対応する方向にある。職員の不安を取り除くことが課題としている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、職員に周知、事務所に掲示している。また、同法人内看護師と連携し、24時間相談できる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署等の協力を得て、年2回(日勤想定・夜間想定)の避難訓練を実施している。また、地震災害に備えて、食料や飲料水の確保をしている。	ハザードマップ上、災害の危険区域には指定されていない。年2回火災の避難訓練を行い、秋の訓練は夜間想定としている。課題であった非常口からの車椅子避難に備え、避難用のスロープを常備した。地域への協力の呼びかけはコロナ禍のため中断しているが、近隣の家庭には、訓練実施をお知らせするポスティングを継続している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の性格や個性に応じて声の大きさや言葉遣い等に配慮し、入居者様の目線に合わせ、意見や話を傾聴しながら接している。入居者様にあったお声掛けを行い、不安等をおこさないよう心がけている。	利用者と毎日の会話を通じ、これまでの生活で培ったお掃除、漬物づくり、書道等の持てる力を把握し、普段の生活にこれを発揮してもらうことを通じ、個を尊重した介護の実践に繋げている。トイレの誘導は他の利用者に気付かれないように声掛けし、居室に入る際には、ノック、声掛けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や思いを傾聴し、楽しく生活できるよう心掛けている。お声掛けや対応に工夫しながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活習慣等に配慮し、その方の生活ペースを大切にしている。出来るだけ、入居者様が出来る事、したい事を行っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・洗面・髭剃りなど、必要に応じてお声掛けや介助を行っている。肌に化粧水やクリームなどを使用している方もいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きのお手伝いをいただくなど、食事の準備を皆で行なう事もある。メニューは決まっているが、苦手な食材がある場合、他の食材に代替するなどの対応を取っている。	ご飯と味噌汁はユニット毎に職員が調理しているが、副食は法人本部から真空パックで届けられている。利用者が調理することはないが、テーブル拭きや配膳などのお手伝いを行っている。誕生会や行事食として、利用者から希望があればメニューを変更して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分チェック表を記録し、各入居者様の状態を把握している。食べにくい食べ物については、大きさや形態を工夫する等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きのお声がけをし、必要に応じて介助を行っている。義歯使用者には、毎日洗浄剤を使用し、清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、お声掛け、トイレ誘導を行っている。夜間は、ポータブルトイレ使用、トイレ誘導、オムツ交換等、入居者様の状態に応じて支援している。	日中は、ポータブル利用の2人、オムツの1人を除く全員がトイレを使用している。夜間でも布パンツ使用の4人の方は、職員の誘導なしでトイレで排泄している。以前、居室での排泄が続いた方も、職員の工夫が実りトイレを使用するようになるなど、職員は、現状維持を最低限の目標として支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、排便チェックを行っている。また、便の状態、量等も観察し、状態によって、かかりつけ医から処方された整腸剤や下剤を、看護師に相談し調整している。毎朝、牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回は入浴できるように支援している。入浴前にバイタルチェックを行い、その日の体調や気分、状態を確認して対応している。基本的に入浴日は決まっているものの、その日の入浴が難しい場合は、翌日と交換などして対応している。	週に2日を入浴日にし、体調チェックを行ってから入浴している。浴室はゆっくりとした広さがあり、湯船につかりながら、職員との寛ぎの時間として、昔の山登りや川で泳いだ事などを楽しそうに話している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後と昼食後に休息の時間をもうけ、ベッドで静養していただいている。休まれる様子がない方には、リビングで過ごしていただく事もある。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更がある場合には、連絡ノートや口頭にて、職員に説明している。また、処方箋等で副作用についても把握に努めている。服用時には他職員と氏名等を確認し、確実な服薬に努めている。下剤等、看護師に助言をいただく事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみや新聞たたみ等の作業のお手伝いをいただく事もある。季節ごとに作品を作成している。テレビを観ながらの体操は日課となっている。季節に応じて、野菜をプランターで育てたり、梅干し作りなども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年であれば、天気の良い日やその日の状況により、敷地内の駐車場付近を散歩したり、近所を散歩する事がある。春と秋にはお花見や紅葉を見にドライブを実施している。ただし、今年はコロナウイルスの影響で、日常的な外出支援が出来ていない状況である。	コロナ禍のため、当たり前のように行っていた季節のドライブ、事業所周辺の日々の散歩が出来ない状態が続いている。外出に代わる利用者のストレスの解消のため、外界と遮断された室内であっても、貼り絵や梅干しづくりなど、利用者は、持てる技能を活かした作業に勤しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はいるが、実際に使用する機会はなく、必要な支払い等はホームで立替で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族等に電話をかけられるように支援している。手紙については、御家族様から持参される事が多い。電話で会話された後は、安心されている様子がみられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで、陽当たりが良く、外を眺めやすい窓である事から、入居者様もよく外を眺めている。壁には季節を感じられるように、入居者様と一緒に作った作品等を飾っている。	両ユニットとも同じ間取りで、リビングの南側と西側には大きな窓があり、いっぱい陽光が差し込んでいる。白を基調とした壁面には、作品の貼り絵が飾られ、全体的に柔らかい雰囲気を作り上げている。暖房等に2台のエアコンとガスストーブが用意されているが、ガスストーブを使うことは少ないとしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを良く見る入居者様や、その他の事に興味がある入居者様、それぞれに合わせて席を工夫している。例年ならば向かい合わせていた席も、コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は向かい合わないよう配置されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ベッド・クローゼット・洗面台が備え付けられている。寝具もホームのものを利用させていただいており、その他のテレビや家具など、その方の日常的に利用するものは居室に持ち込み使用していただいている。	ベッド、大型のクローゼット、洗面台が備えられ、テレビのほか。利用者が使い慣れた小箆筒、椅子などが持ち込まれている。壁には家族写真や父の日、母の日に贈られた職員手作りのカード、お気に入りの絵画の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在はいないが、その方によって、お部屋の入口に目印などをつけて支援する事もある。上階を訪ねる時は、エレベーターを使い、行き来する方もいる。		